

回 想 記

岩 佐 昌 子

花葉会の皆様の御厚誼に深く感謝いたします。

仕事と趣味が一緒の幸せな人生であったと振り返っていました。75歳までは必ず毎年海外へ花を見に行こうと申し、今年（平成18年）はイギリスへ行くつもりで旅行会社に予約していましたが、残念ながら実現できませんでした。

また、「私の辞書が一冊なくなってしまった」というくださる方もありました。

昭和26年（1951）岩佐が卒業した年に、私は入学し、2年生から始まった農場実習での指導者でした。また私は卒業と同時に坂田種苗(株)（現 (株)サカタのタネ）に入社、1年後の昭和31年（1956）に岩佐も入社し、同じ部所で働くことになり、昭和38年まで机を並べていました。

学部で園研の助手をしていた時代にはいろいろなことをやっていますが、特に私の目にふれたのは、チューリップの花芽分化を調べていた頃のことです。自分で冷蔵庫の温度管理をし、ステージごとの分化度合いを球根を切って調べますが、その折球根の液が指や手につき、かぶれて痛かゆがったり、割れたり、哀れなほどの手になっていた時もありました。後に私も普通の販売用のチューリップの球根を素手で半日ほど数を数えただけで、指先が痛かゆくなった経験もあります。

坂田種苗に勤めてからは、商品が売れるようにするために腐心していました。例えば花の種子を入れる絵袋や球根につけるラベルなどを作るために、写真を撮っていました。特にチューリップや一部のスイセンは庭に植えて、写真の材料としました。1種10～15球で何種類植えたか定かではありませんが、50種は越えていたと思います。また、農場や産地から持ち帰る花には必ずラベルがついているため、子どもの頃の娘は、「うちの花はみんな札つきだ」と言って笑ったこともありました。

ダリアも好きでしたが、ダリア以外の球根類も大好きで、近年は輸入が簡単になったため、ラトビアから珍しいようなものを輸入したりしていました。ただラトビアは

寒い国でもあるため、暑さに弱いものが多いようです。輸入当年はよくても、夏越ししないものもありました。もちろん、粗放栽培でしたが。

もっといろいろと、きっちり聞いておくべきだったと思うことも多いのですが...。「タイヘンだ」と言いながら、手の届く範囲で植物をいじっています。

岩佐吉純氏 略歴

- 1931年2月5日 大阪市に生まれる
- 1951年3月 千葉農業専門学校園芸科（現 千葉大学園芸学部）卒業
- 1951年4月 財団法人 日本園芸生産研究所助手
- 1956年3月 千葉大学園芸学部文部教官助手
- 1956年4月 坂田種苗株式会社（現 株式会社サカタのタネ）入社
- 1967年7月 同社園芸部部长
- 1972年7月 同社取締役園芸部長
- 1981年2月 ニュージーランド政府招待にて渡航、園芸講演を行う
- 1991年7月 同社取締役国内卸営業本部長兼園芸部長
- 1991年8月 同社常務取締役国内卸営業本部長兼 園芸部長
- 1992年4月 同社常務取締役国内卸営業本部長
- 1992年8月 同社専務取締役国内卸営業本部長
- 1996年8月 同社専務取締役管理本部長
- 1999年8月 同社顧問
- 2001年8月 同社退任
- 1998年6月 株式会社 大田花卉社外取締役に就任
- 1998年7月 財団法人 園芸文化協会副会長に就任
- 2001年4月 日本園芸学会より園芸功労賞を受賞
- 1968年より海外視察 世界各国を訪れること50数回に及び
- 2006年5月31日 逝去